

ピオグリタゾン「トール」

を服用される方へ

指導・監修

国際医療福祉大学病院 糖尿病内分泌代謝科
教授 栗田卓也 先生

この薬の服用により、むくみ(浮腫)や体重増加があらわれたり、心臓の働きに影響し、息切れ、動悸などの症状があらわれることがあります。特に心臓の病気をお持ちの方は注意してください。

むくみ (浮腫)	むくみ(浮腫)のために、下腿や足が腫れたり、顔面やまぶたが腫れぼったくなるなどの症状があらわれることがあります。
体重増加	体重の増加があらわれることがあります。体重はできるだけ毎日測定し、急激な体重の増加に注意してください。
息切れ、 動悸	労作時に息が切れたり、動悸がする(心臓がどきどきする)などの症状があらわれることがあります。 症状が進行すると、安静にしているにもかかわらずこのような症状があらわれることがあります。

これらのような症状は、この薬の服用を始めてから早期にあらわれることがあります。これらの症状に気づいた場合は、この薬の服用を中止し、主治医に相談してください。

血糖値を下げる糖尿病の薬が処方されています。

以下の点に注意してください。

また、この注意は、必ず家族やまわりの方にも知らせてください。

低血糖症状を起こすことがあります。

- 単独の使用で低血糖症状を起こすことはあまりありませんが、この薬とほかの糖尿病の薬(血糖を下げる薬)を併用した場合に低血糖症状を起こしやすくなります。
- とくにインスリンとの併用で多くなることが報告されています。
- 低血糖症状が起こった場合は、がまんせずに早めに糖分(砂糖、ブドウ糖など)をとってください。ただし、 α -グルコシダーゼ阻害剤(ボグリボースやアカルボース、ミグリトール)などの糖分の吸収を遅らせる薬剤を併用している場合には、必ず**ブドウ糖**をお飲みください。
- 高所作業や自動車の運転など危険を伴う機械を操作している時に、低血糖症状を起こすと事故につながります。特に注意してください。

低血糖症状やけん怠感、吐き気、食欲不振、むくみなど、この薬を飲んで不快な症状が気になる場合は主治医に相談してください。

低血糖症状の詳細については裏面をお読みください。

低血糖症状について

●低血糖症状とは

血液中の糖分が少なくなりすぎた状態です。

症状は、「冷や汗がでる」、「気持ちが悪くなる」、「急に強い空腹感をおぼえる」、「動悸がする」、「手足がふるえる」、「目がちらつく」、「ぼんやりする」、「ふらつく」、「力のぬけた感じがする」、「頭が痛くなる」などや「いつもと人柄の違ったような異常な行動をとる」、「わけのわからないことを言う」、はなはだしい場合には「意識を失う」、「けいれんを起こす」こともあります。



●低血糖症状が起これたら

低血糖症状になっても軽いうちは糖分を食べると治まります。

平素から**糖分(砂糖、ブドウ糖)**などを持ち歩き、すぐその場でとることが必要です。ただし、 α -グルコシダーゼ阻害剤である

- ・ アカルボース (商品名:グルコバイなど)
- ・ ボグリボース (商品名:ベイスンなど)
- ・ ミグリトール (商品名:セイブルなど)

を併用している場合には必ず**ブドウ糖**をとってください。

●低血糖症状を起こさないために

- ・ 薬の量や飲み方は主治医又は薬剤師の指導を守り、また食事療法や運動療法もきちんと守ってください。
- ・ 食事時刻の遅れ、激しい運動、空腹時の運動は避けましょう。

その他、下記の点に注意してください。

この薬が膀胱がんの原因と断定されたわけではありませんが、海外の研究でこの薬が膀胱がんの発症率をわずかにあげるとする報告があります。

- 膀胱がん治療中の方はこの薬を服用しないこととされています。膀胱がんと診断されたことがある場合は主治医に伝えてください。
- また、膀胱がんの早期発見のため、血尿や頻尿、排尿痛などの症状が見られた場合には、主治医に相談してください。
 - ・ 血尿 尿が赤くなることがあります(痛みを伴わない場合が多い)。
 - ・ 頻尿 排尿の回数が多くなる場合があります。
 - ・ 排尿痛 急な尿意や排尿時に痛みの症状がみられることがあります。
- くれぐれもご自身の判断で薬をやめないで、心配な方は主治医に相談してください。